

# 対話フォーラム及び環境再生ツアー等 の効果検証について

令和4年11月15日  
環境省

## 各イベントでのアンケート回答数

### ・現地見学ツアー・ワークショップ

①8/2-4開催	事前アンケート回答：14件	事後アンケート回答：8件
②8/18-20開催	事前アンケート回答：73件	事後アンケート回答：58件
③8/31-9/2開催	事前アンケート回答：21件	事後アンケート回答：21件
④9/12-14開催	事前アンケート回答：13件	事後アンケート回答：12件

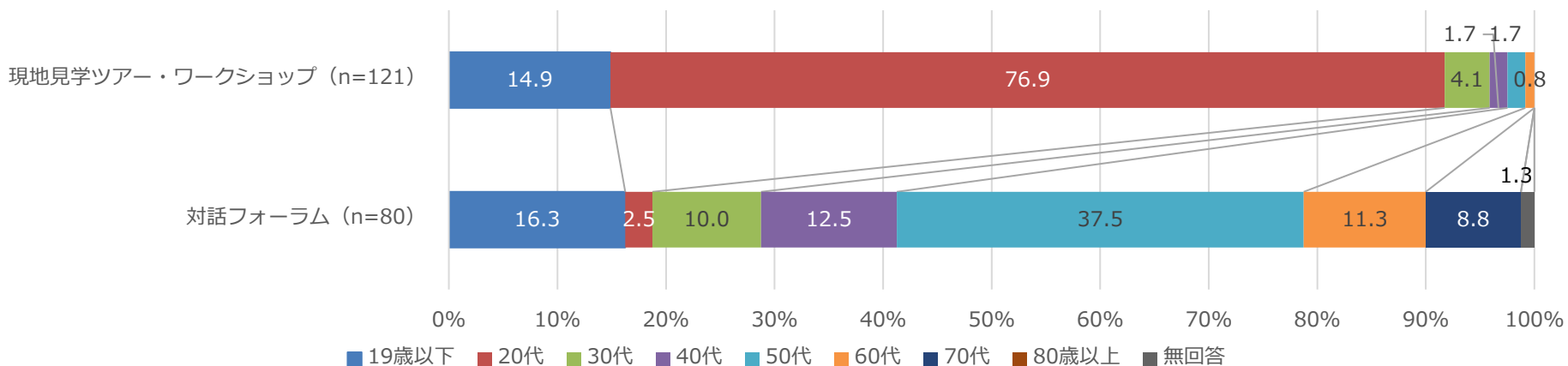
### ・対話フォーラム (7/23 広島県)

オンライン参加者の回答：24件      現地参加者の回答：56件

※現地見学ツアー・ワークショップと比較して、アンケートの回答率が低かった。

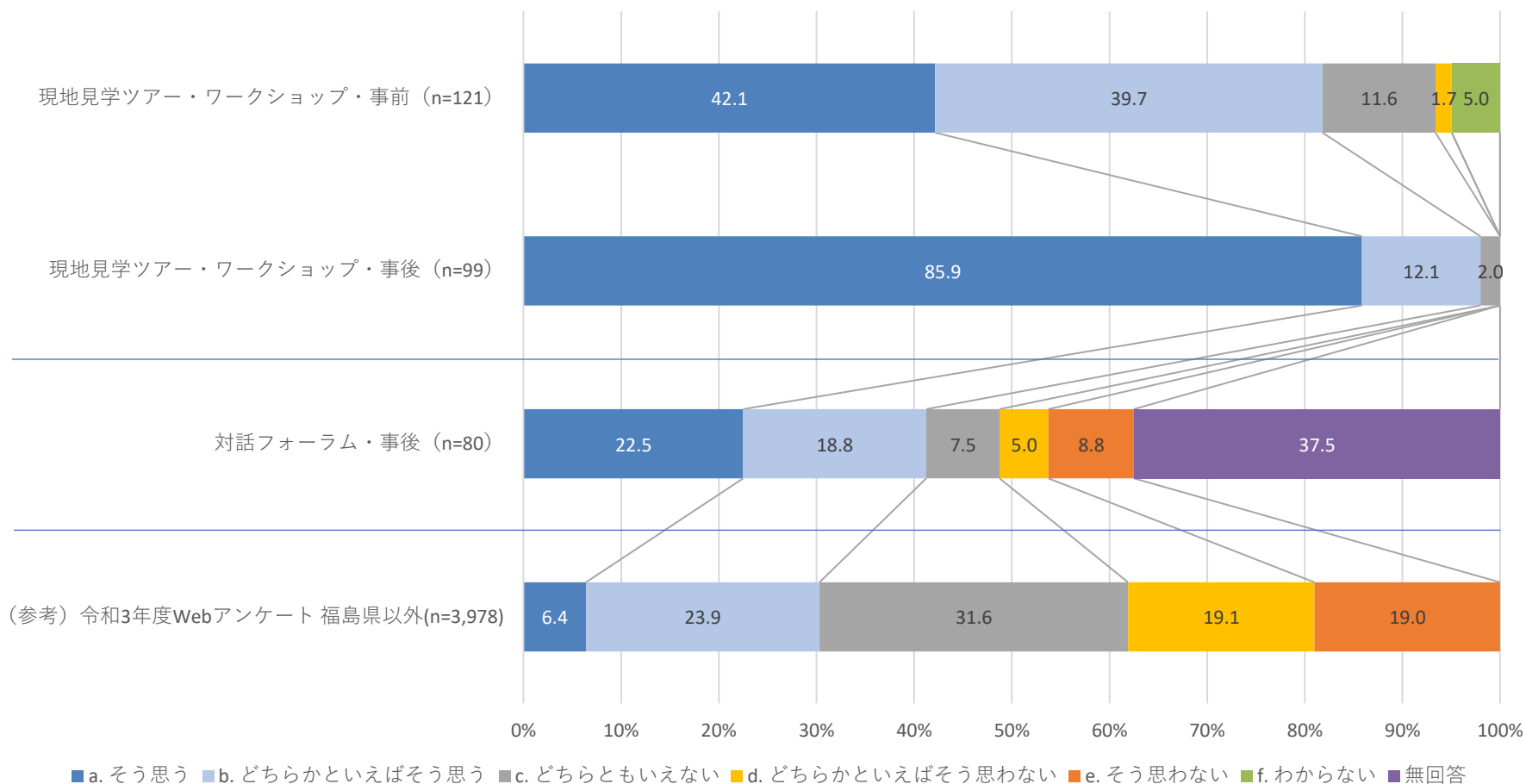
## 各イベントの参加者属性

・現地見学ツアー・ワークショップでは、20代以下の参加者が約9割を占める。対話フォーラムでは年代の偏りは小さいが、50代以上の参加者が約6割を占める。



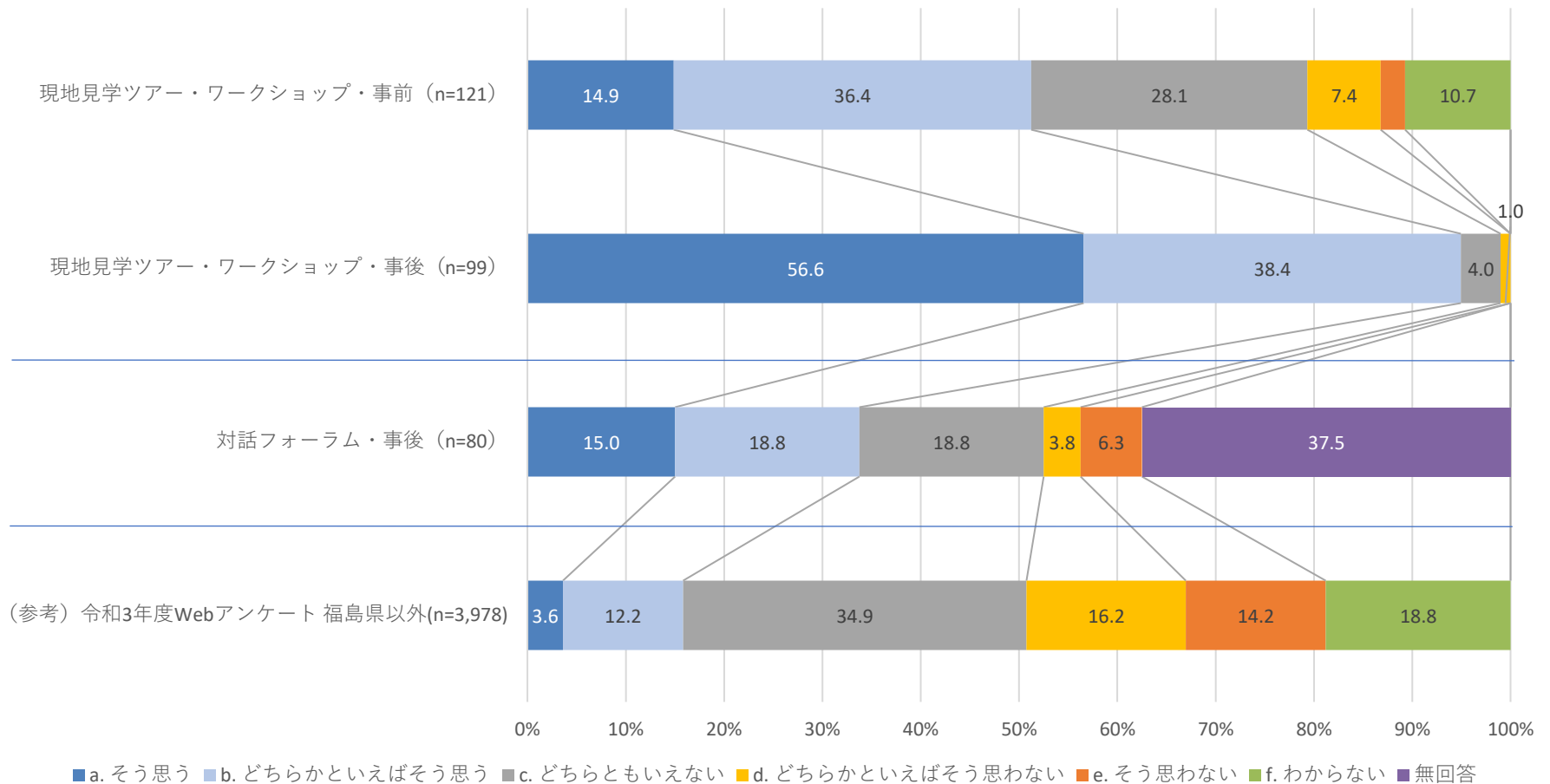
- ・ 現地見学ツアー・ワークショップでは「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合がイベント前後で増加し、事後アンケートでは9割を上回る。対話フォーラムでは約4割。

除去土壌の再生利用をする必要があると思いますか。



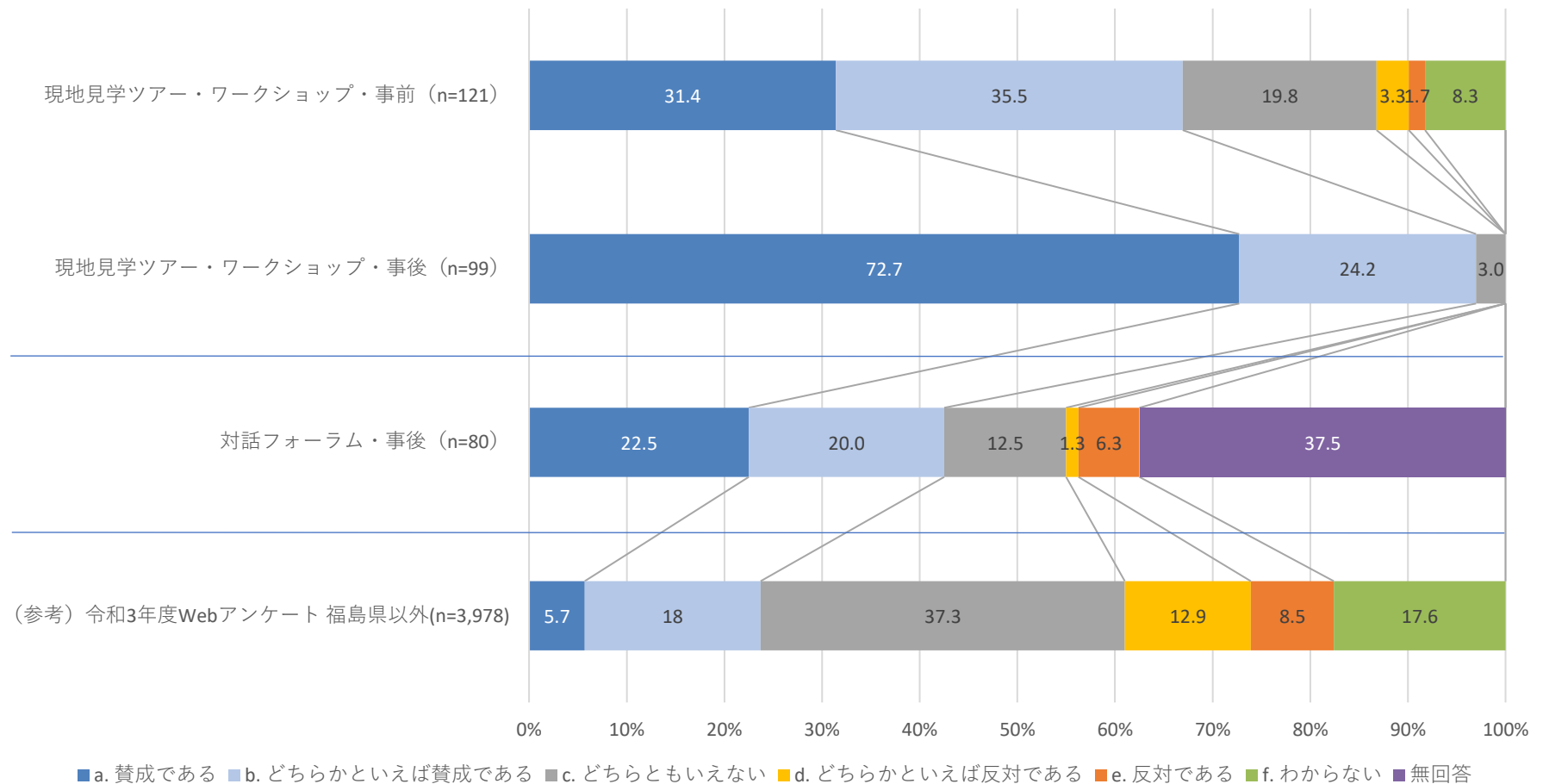
・ 現地見学ツアー・ワークショップでは「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合がイベント前後で約5割から約9割に増加。対話フォーラムの事後アンケートでは約3割。

除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。



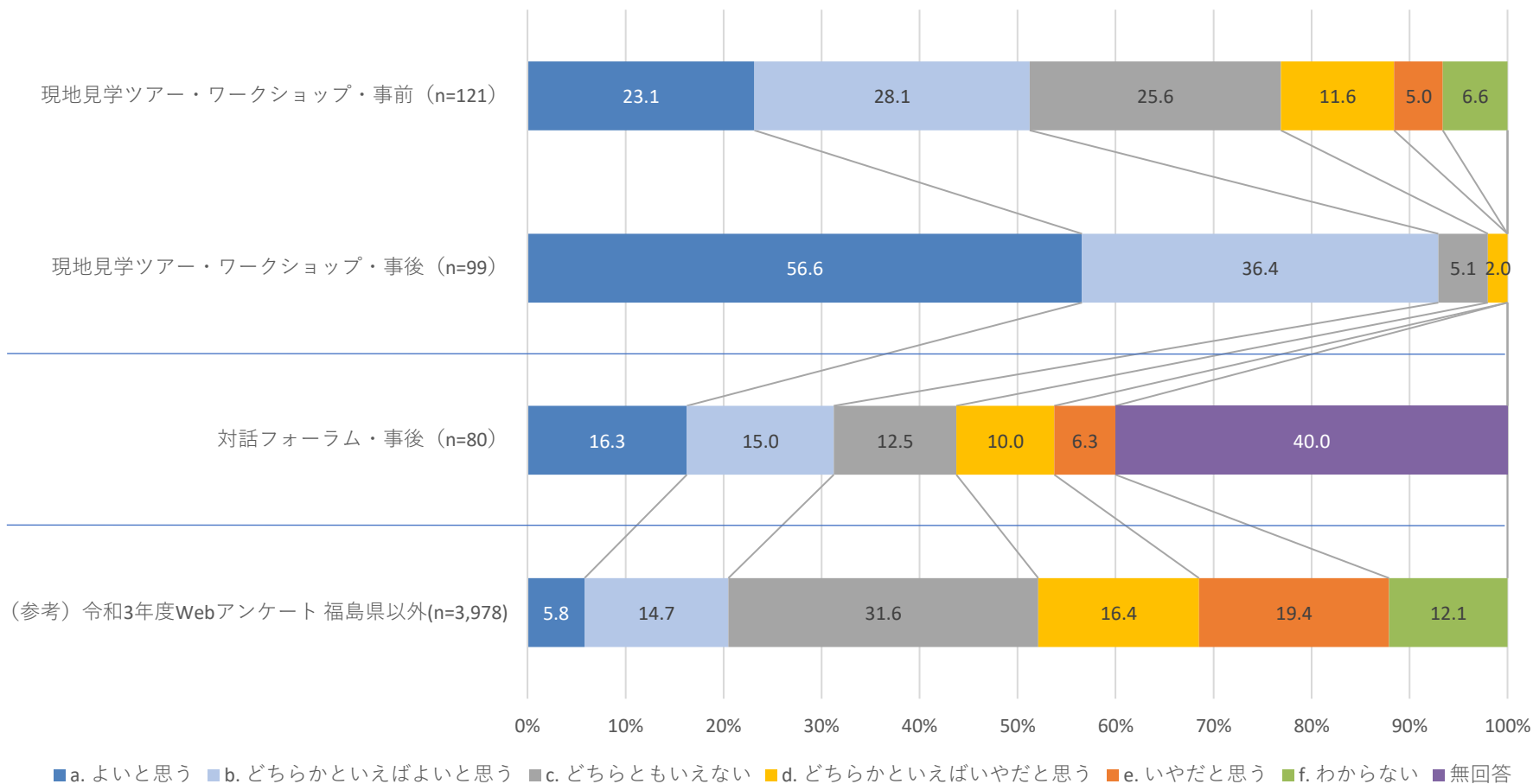
- ・ 現地見学ツアー・ワークショップでは「賛成である」「どちらかといえば賛成である」の割合がイベント前後で約7割から9割以上に増加。対話フォーラムの事後アンケートでは約4割。

除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。



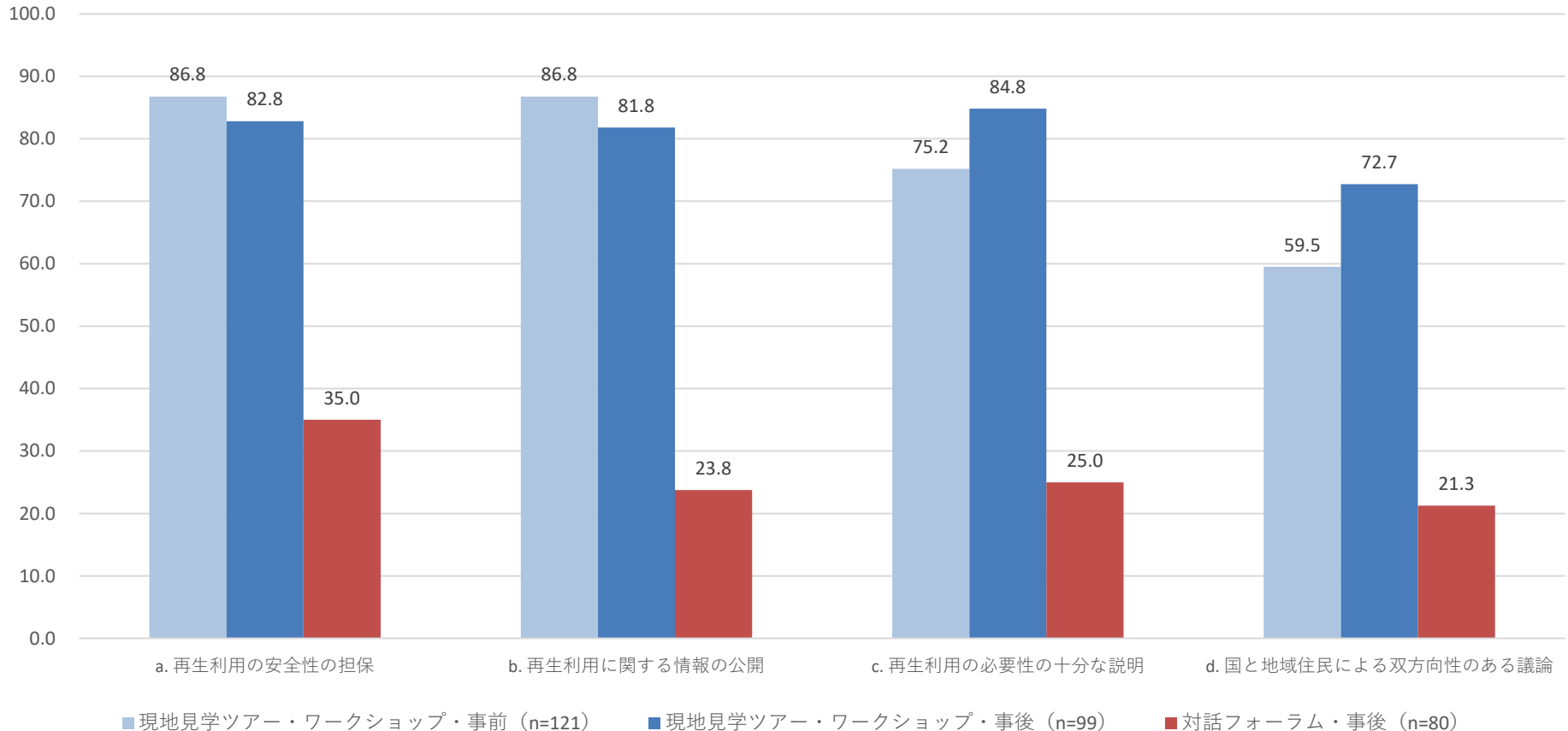
・現地見学ツアー・ワークショップでは「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」の割合がイベント前後で約5割から約9割に増加。対話フォーラムの事後アンケートでは約3割。

自身のお住まいの地域で除去土壌の再生利用が実施されてもよいと思いますか、それともいやだと思いますか。



- ・事前・事後で比較すると、「再生利用の必要性の十分な説明」「国と地域住民による双方向性のある議論」「国民的議論ができる場がある」等の割合が増大する。

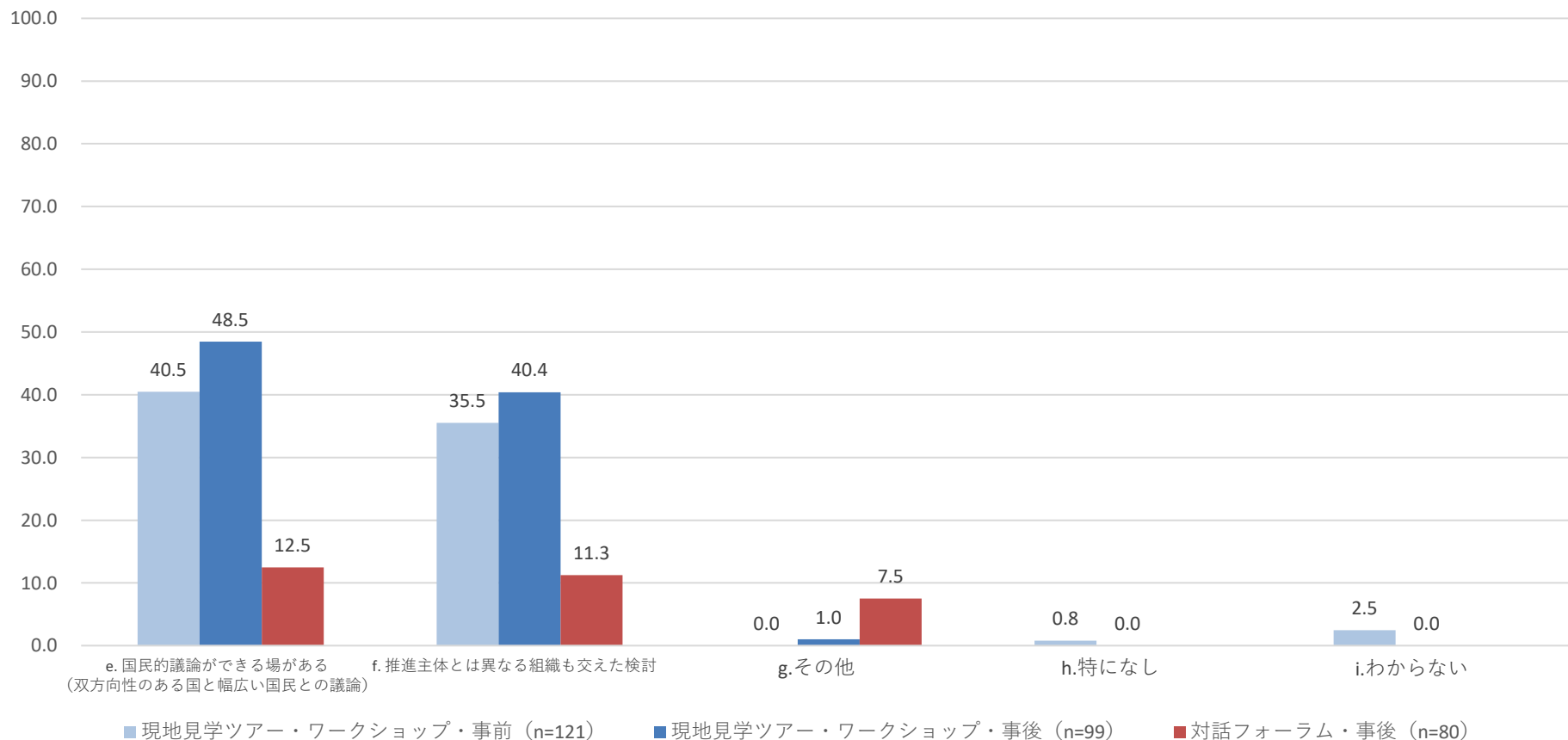
除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得るうえでどのような条件が整っている必要があると思いますか。以下の項目からいくつでもお選びください。（単位：%）



※7/23\_広島対話フォーラムではWeb版の回答形式が単一選択になっていたため参考値

- 事前・事後で比較すると、「再生利用の必要性の十分な説明」「国と地域住民による双方向性のある議論」「国民的議論ができる場がある」等の割合が増大する。

除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得るうえでどのような条件が整っている必要があると思いますか。以下の項目からいくつでもお選びください。（単位：％）





## 現地見学ツアー・ワークショップ

## ＜再生利用に関する知識の習得等＞

- ・中間貯蔵ではあるけれど、案外除去自体は進んでいたことがわかった。また、県外に土壌を輸送し、使っていくことには**更なる問題点が山積しているということもわかった**。
- ・除去土壌の最終処分は危険だと思っていたが、実際には心配するほど危険ではないということが分かった。
- ・私のような認識の変化を世間に拡大できるように、**まずは身近な人から伝えていきたい**と思った。
- ・これからは周りのより多くの人々が除去土壌や処理水の問題について考えるきっかけとなるように今回の経験を伝えていきたいです。

## ＜現地の方や参加者等とのコミュニケーションの機会＞

- ・**地元の住民がどのように感じているのか生の声を聞く場が欲しい**と感じた。
- ・被災者の方の中間貯蔵施設についてのご意見をもっと聞けたら良かったと思います。
- ・学生、教員、環境省の職員との**ディスカッションの時間と場所**が取れると双方向の学びにつながるとともに学生の理解向上や自ら真剣に考える機会、「議論し考える場」になると思いました。

## ＜スケジュール等＞

- ・**一つ一つの施設での滞在時間が短い**ので、もう少し入れたら施設を堪能できるし、たくさん質問したい人にも有益な時間になると思いました。
- ・中間貯蔵施設、リプルン福島、長泥地区環境再生事業エリア、もちろん細かい違いはあるのは承知していますが、この3つの施設内容や**説明がほとんど同じだったため、少し飽きてしまった部分**はありました。

## 対話フォーラム

## ＜フォーラムの登壇者等について＞

- ・除去土壌の県外最終処分について**関心のない人にも届くような情報発信が必要**と感じた。情報発信活動の場などあれば協力したいと思っています。
- ・**反対意見を持たれる専門家を招いてのセッションのほう**が実があると思う。

## ＜コミュニケーションの機会＞

- ・登壇者の人数を絞って、**質疑応答に時間を割いてほしい**です。

- ◆現地見学ツアー・ワークショップ、対話フォーラムの両方において、イベント前後で再生利用の必要性理解、安全性理解、賛成割合が向上していた。
- ◆現地見学ツアー・ワークショップ、対話フォーラムの両方の事後アンケートにおいて、再生利用の必要性理解、安全性理解、賛成割合が令和3年度Webアンケートの結果よりも高くなっていた。特に現地見学ツアー・ワークショップでは上記の割合が高かった。  
⇒理由の一つとして、これらのイベントにはもともと再生利用等のテーマに関心がある層が多く参加していたことが考えられる。特に現地見学ツアー・ワークショップでは、学生層の参加が多く、学習意欲が高かったものと考えられる。
- ◆再生利用を進めるうえで社会的に理解を得るための条件について、事前・事後で比較すると「再生利用の必要性の十分な説明」「国と地域住民による双方向性のある議論」「国民的議論ができる場がある」等の割合が高まっていた。  
⇒理由の一つとして、イベントを通じて再生利用の安全性や必要性に関する参加者の理解が高まり、それらについてより広く知ってもらうことが重要視されるようになった可能性があると考えられる。
- ◆参加者の感想では、知識を獲得できたこと、現地を訪問できたことに満足感を持ったという声が多かった。また、自分も貢献したいという思いが表れた声も複数見られた。
- ◆一方で、現地見学ツアー・ワークショップの感想では、現地の方とのコミュニケーションやディスカッションの機会が少ないことに関する声も複数見られた。